

甲田ゆり子の10月～12月活動報告

2012年 10月	第3回定例会(9/20～10/22)
	公明党議員団として各種団体との予算要望懇談会(1団体)
	中野区医師会 乳がん区民講座
	にぎわいフェスタ
	区商連60周年記念式典
	障害者福祉会館まつり
	東北復興大祭典なかの
	中野区消防団合同点検(江古田の森)
	東京都道路整備事業推進大会(日比谷公会堂)
	公明党中野総支部時局講演会
11月	乳がん撲滅月間(ピンクリボン)
	街頭演説会
	上鷲こぶし園フェスティバル
	あらい地区まつり
	厚生委員会視察(長野県伊那市、岡谷市)
	子宮頸がんセミナー(長野市)
	上高田地区まつり・上高田地区子どもまつり

11月	オリンピック招致デモンストレーション(中野駅北口)
	目黒区視察(目黒線地下化と西小山駅周辺まちづくり)
	金沢、福井視察(小中一貫教育、福井市立至民中学校)
	遠位型ミオパチーの理解を深めるシンポジウム(品川)
	平和の森公園まつり
12月	中野区災害医療救護訓練(平和の森小学校)
	難病患者全国フォーラム2012(日経ホール)
	福祉サービス事業団評議員会
	学校再編意見交換会(上高田小、新井小)
	N A S勉強会
	第4回定例会(12/3～12/7、12/17～12/20)
	※12/5一般質問
	公明党議員団として予算要望を区長に提出
	《12/4～12/16 衆議院議員選挙》
	区立中野中学校学校公開(法教育)参観
新井中町会もちつき大会	
新井文化クラブとともに新井小を訪問(エコキャップ)	

甲田ゆり子地域実績



▲自転車止まれ路面シール(上高田5丁目3番)



▲道路注意看板設置(上高田5丁目3番)



▲道路注意看板設置(上高田5丁目23番)

■甲田ゆり子 区民相談受理事件数
2012年10月～2012年12月 55件
(2011年5月～2012年12月の累計 321件)

区政に関すること、お気軽にご相談ください。

12月3日 公明党議員団は平成25年度予算要望を区長に提出しました。

2012年12月3日に公明党議員団(幹事長:梁川妙子、平山英明、久保里香、小林秀明、南勝彦、白井秀史、小林善一、木村広一、甲田百合子)として田中大輔中野区長に平成25年度予算要望書を提出いたしました。



▲要望書を提出する公明党議員団

甲田ゆり子連絡先

- 公明党控室 03-3228-8875 FAX 03-3389-8680
- ホームページ <http://www.komei.or.jp/km/nakano-koda-yuriko/>
- ブログ <http://ameblo.jp/anskissui/>
- Eメール kouda-yuriko@aioros.ocn.ne.jp
- Twitter @KoudaYuriko
- Facebook 甲田ゆり子 または Yuriko Kouda で検索

こうだ 甲田ゆり子 ニュース

公明党 VOL.006
発行元:中野区公明党議員団 ■2013年 新春号

こうだ!と決めたらまっしぐら!生まれ育った中野を笑顔輝くまちに

ご挨拶

地域の皆様には、日頃より真心のご支援を賜り心より感謝申し上げます。甲田ゆり子は、本年も一人の声を大切に、皆様のお声をお聞きしながら全力で働いてまいります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

甲田ゆり子

高倉都議とともに地域の課題、要望をお聞きしています。



▲高倉良生都議とともに商店街にてご意見を聞く甲田ゆり子

甲田ゆり子は、生まれ育ったまち、沼袋と新井薬師前駅周辺の発展をめざし、高倉良生都議会議員とともに、まちのお声を伺っています。今後ぜひ皆さまからのご意見、ご要望をお寄せください。

西武線地下化にともなう「まちづくり検討会」が発足!

西武新宿線の連続立体交差化事業や区画街路の整備に伴い、中野区主導により沼袋駅および新井薬師前駅周辺の地元まちづくり組織の設立が進んでいます。



「沼袋駅周辺地区まちづくり検討会」は、昨年9月に設立。「新井薬師前駅周辺地区まちづくり検討会」は、昨年11月に準備会が立ち上がりました。12月には一般公募が終了し、本年2月の設立をめざし準備が進められています。

(※詳細は中野区公式HPにて「新井薬師前駅周辺地区まちづくり」をご覧ください。)

まちづくり検討会は約3年間定期的な会議を開催し、地域の住民が具体的なまちづくりの検討に取り組んでいくものです。

一般質問に立ちました。平成24年第4回定例会 一般質問(要旨)

がん対策について

がん検診の充実について

甲田 子宮頸がん検診では、細胞診とHPV(ヒトパピロマーウィルス)検査を併用することで、前癌病変の見逃しがほぼゼロとなる。併用検診は、受診者の経済的、身体的、精神的負担を軽減し、さらに自治体経費の削減につながる。

提案 区は早期に併用検診を導入すべきでは。

答弁 国の動向を踏まえ、財政的な負担などを勘案し実施の可否を検討したい。

がん検診コールセンターの設置について

甲田 来年度、受診票の送付方式が変更になると厚生委員会で報告があった。現在区の健診の電話窓口には問い合わせが多いと聞いている。今後さらに問い合わせが増えることが予想される。

提案 区民の不安に応え受診率を向上するため、この機会にがん検診のことなら何でも電話で気兼ねなく聞ける「がん検診コールセンター」を設置しては。

答弁 健診について多岐にわたる内容の電話が担当部署に頻繁にかかっているのが現状である。今後区民にとって分かりやすい健診におけたPRや啓発をすすめ、コールセンターも含めた民間委託のあり方を検討する。

がん教育について

甲田 がんに対する正しい知識があまり知られていない。2012年6月に策定された「がん対策基本計画」の中に「がん教育」の推進が盛り込まれた。

提案 区立小中学校での「がん教育」を推進するため、例えば、学校に派遣された医師が分かりやすい授業を行う「ドクタービジット」(朝日新聞社が日本対がん協会と行う出前授業)などを活用してはどうか。

答弁 指導内容との関連や研修での活用など、民間団体との連携の方策を検討する。

学校再編について

10月に「区立小中学校再編計画(第2次)」の素案が発表された。11月までに各学校で意見交換会も行われた。それらも踏まえ、学校再編の基本的な考え方について大きく四つの観点から伺う。

教育面について

甲田 学校再編について議論する上で一番大事な観点がある教育面である。再編を行なう中で、小中連携教育などの教育の課題が具体的に進むのか、中野の子どもたちの教育の向上が確

実に良くなるというのでなければ区民の理解は得られない。

提案 金沢市では、モデル校区を指定して小中一貫教育を行っている。市をあげて「絆教育」に取り組んでいる。中野区も小中連携教育については、すぐにもモデル校を指定するなどして取り組みを開始し、理解を得られるようにすべきでは。

答弁 小中連携教育は、児童・生徒一人ひとりの成長過程を小中の教員が切れ目なく継続的にフォローすることが大切と考えている。具体的な内容については教育委員会が現在検討を進めている。

防災面について

甲田 今、最も関心が高いのが防災の観点である。小中学校は地域の避難所となっている。再編により避難所が減ると区民は考えている。3.11を機に区は、より安全性などの高い避難所機能の向上を考えているはず。区民の不安を取り除く明確な方向性を示すべきでは。

答弁 避難所の再編や学校以外の施設なども含め、地域における必要な避難所機能の確保を図る。また、震災における教訓を反映し、女性、災害時要援護者等への配慮や各種物資の配備など、避難所機能の充実を図っていく。

まちのコミュニティについて

甲田 学校がなくなることで、学校を拠点としたコミュニティがなくなり、まちに活気がなくなるのではという懸念がある。そうした区民の不安感に対して区としての見解は。

答弁 学校と地域との連携を図ることによって、学校や区民活動センター、すこやか福祉センターなどを中心とするコミュニティの活性化を図っていききたい。学校と地域の連携については、「学校支援ボランティア」、「中学校区ごとに設置している地区懇談会」、「次世代育成委員の活動」によるネットワークづくりと健全育成事業の推進に取り組んでいきたい。

跡地活用について

甲田 既に行われた前期の再編による学校跡地については方向性が示されたところもある一方で、いまだに不明確なところも存在している。本来、区民の財産である学校跡地の活用は、ある程度区民と一緒に考え、責任をもって方向性を示しておくべきではなかったか。再編の跡地に限らず、本来中野区全体として、区に現在は無いが区民にとって必要な、そして区民が中野に住んで良かったと思えるものを検討することも重要と考える。



提案 例えば私は、特養や介護施設はもちろんのこと、中野区防災館や異世代交流の施設、産前産後ケアセンター、文化芸術の交流館、生活困窮者や障害者の就労支援センターも必要と思っているが、区長の見解は。

答弁 跡地の活用については、区民サービスの向上や地域の活性化、まちの安全・安心の確保など区民生活に最も資することとなるよう考えている。具体的な活用については、区が直接利用する場合、民間の施設を誘導する場合、また、学校施設の改善の財源を確保するため、適切な条件を担保した上で売却する場合など様々な考えられるところであり、慎重に検討していきたい。

骨髄バンクドナー支援について

甲田 今回、造血幹細胞移植推進法が成立した。公明党が一貫して主導してきた法律の制定である。この推進法の整備に伴い、患者、家族の支援をするために、ドナー登録者の増加を目指していくことは、白血病などの病気で若くして命を落とす人をなくしていく道を開くこととなる。そのため、独自にドナーの助成制度を立ち上げている自治体もある。

提案 今後区としてもドナー助成制度を立ち上げ、ドナーの休業支援などをしてはどうか。

答弁 骨髄移植をすすめ、ドナー登録者を増やしていくことは重要と考え、ドナー登録を推進するパンフレットを区立施設に設置している。移植医療は、他にもさまざまあることから、骨髄移植ドナーへの経済支援を区独自に設けることは慎重にすべきと考えるが、実態などを把握し、研究してみたい。



今後の子育て支援のあり方について

甲田 この度の「社会保障と税の一体改革」の中で、「子ども子育て関連3法」が成立した。関連3法の実施は2015年。実施主体の基礎自治体を支える制度であり、自治体の主体性が問われる。地域の子どもや子育てのニーズをきちんと把握し、地域の実情に応じた仕組みを、幼稚園や保育園の事業者、そして利用者など現場の意見を反映させながら作る必要がある。そのための「子ども・子育て会議の設置」についてどのようにしていくのか。また、新制度移行にあたっての区の見解を伺いたい。

提案 身近な場所で、気軽な相談に応じられる体制を整えていく必要があり、横浜市で実施している「保育コンシェルジュ」や松戸市の「子育てコーディネーター」はニーズに合った情報



提供ができる。中野区でも検討すべきでは。

答弁 子ども子育て関連3法の趣旨を踏まえ、誰もが安心して子を産み育てられる中野を実現するため、さらに総合的・計画的に子育て支援策を積極的に推進していく。「地域版子ども子育て会議」の設置については、既存の審議会の活用を含めて検討していく。新制度の移行には相当な準備が必要。このため、国の動向を見極めつつ、庁内の体制の強化を図りながら円滑な移行の準備をすすめていく。保育所入所相談は、区役所の窓口で行なっている総合的な相談の充実によって対応を図りたい。また、子育て相談は、区内4カ所のすこやか福祉センターや、区内の保育園等も行なっており、多様な場所での相談を充実させていく。

お得な自転車教室について

甲田 今春、警視庁が都内で意識調査をしたところ、自転車のルールを知らない人が6割にものぼったという。三鷹市や武蔵野市では、交通安全講習を実施した市民に駐車場を優先的に割り当てる「お得な自転車教室」を実施している。これにより、自転車関連事故数減少の効果があがっている。

提案 危険な自転車運転を少しでも減らすため、中野区でもこうした事業を取り入れて実施するとともに、キャッチアップしにくい若い世代の方の受講も促すため、受講者に対して区の駐輪場を利用する際のインセンティブを与えてみては。

答弁 受講を促すためのインセンティブを含め、具体化について検討していく。

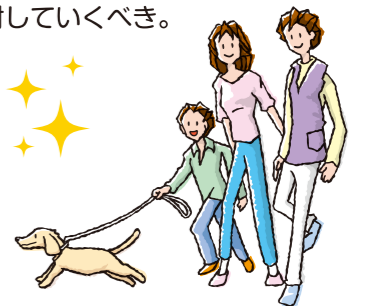


中野四季の森公園のイルミネーションについて

甲田 イルミネーションは人を元気にさせ、集客効果も高い。活気ある中野のために四季の森公園でイルミネーションを、との声が高まっている。

提案 今後正式に発足する、「中野四季の都市(まち)」(※注)におけるエリアマネジメントの中において検討を促していくべきと考えるがどうか。また、さらに広げて中野駅周辺のタウンマネジメントの中でも検討していくべき。

答弁 今後、区の構想をまとめ、関係機関と調整をしていきたい。エリアマネジメント、タウンマネジメントの中で、個々の取り組みについても具体化していくものと考えている。



(※注)中野四季の都市(まち)地区→旧警察大学校跡地地区の新名称